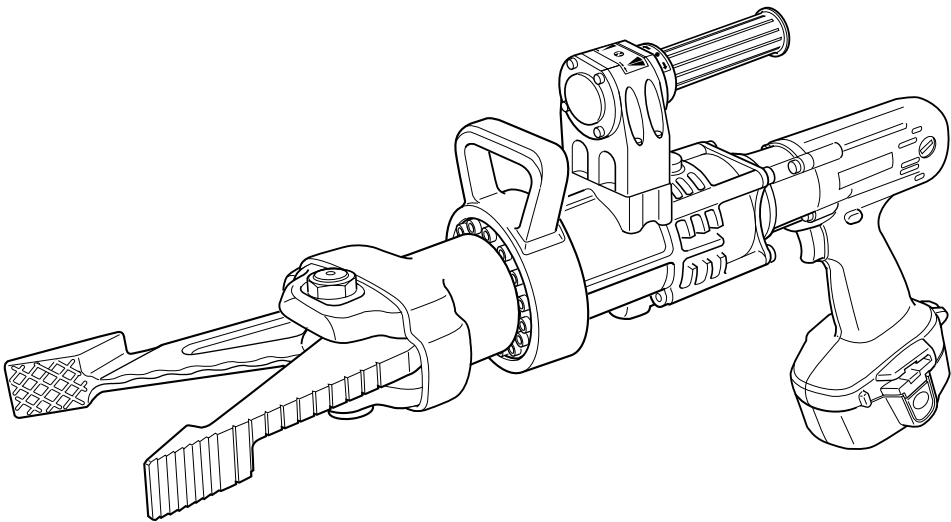


Ogura® BATTERY-OPERATED COMBI TOOL

コードレス・レスキュー・コンビツール

Model: OCT-250

取扱説明書



当社製品を安全にご使用いただくために、取り付けおよび操作の前には必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、必要なときに参照できるようお手元に大切に保管してください。

目次

警告 / 注意	3
各部の名称と仕様	6
バッテリーの充電について	7
操作法	8
コンビ刃物（アーム）の交換手順	12
油の補充方法	14
使用例	15

安全上のご注意

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



警告

- ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
 - 充電器とバッテリーは取扱説明書に記載されている組み合わせで使用してください。
 - 指定以外の組み合わせでは、破裂して傷害や損傷を及ぼすおそれがあります。
 - 正しく充電してください。
 - この充電器は定格表示してある電源で使用してください。昇圧器などのトランス類を使用したり直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。異常に発熱し、火災のおそれがあります。
 - 温度が10 未満、あるいは温度が40 以上ではバッテリーを充電しないでください。破裂や火災のおそれがあります。
 - バッテリーは、換気の良い場所で充電してください。バッテリーや充電器を充電中、布などで覆わないでください。破裂や火災のおそれがあります。
 - 使用しない場合は、電源プラグを抜いてください。感電や火災のおそれがあります。
 - バッテリーの端子間を短絡させないでください。釘袋等に入れると、短絡して発煙、発火、破裂のおそれがあります。
 - 感電に注意してください。
 - ぬれた手で電源プラグに触れないでください。感電のおそれがあります。
 - 作業場の周囲状況も考慮してください。
 - 充電工具、充電器、バッテリーは、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。感電や発煙のおそれがあります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。暗い場所での作業は事故のおそれがあります。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用したり、充電しないでください。爆発や火災のおそれがあります。
 - 保護めがねを使用してください。
 - 作業時は保護めがねを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防塵マスクを併用
- してください。切削したものや粉じんが目や鼻に入るおそれがあります。
 - 製品の刃物など作動部分には手を触れないでください。
 - 刃物の刃先は危険です。
 - 作動部は加工のための大きな力を出力して動くため危険です。
 - 次の場合は、充電工具のスイッチを切り、バッテリーを本体から抜いてください。
 - 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、ビット等の付属品を交換する場合。
 - その他危険が予想される場合。本体が作動して、けがのおそれがあります。
 - 不意な始動は避けてください。
 - スイッチに指を掛けて運ばないでください。本体が作動してけがのおそれがあります。
 - 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
 - 本取扱説明書および弊社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものは使用しないでください。事故やけがの原因となるおそれがあります。
 - バッテリーを火中に投入しないでください。破裂したり、有毒物質の出るおそれがあります。
 - 対象物を切断する際には切断片が飛ぶことがあります。
 - ご使用時には周囲の安全に十分ご注意ください。また、作業中(機械の使用者)は対象物を切断する側へ顔や手など身体が近づくような姿勢を絶対にとらないでください。切断片が飛んで負傷するおそれがあります。
 - 対象物を短かく切断する際に、切断の方向や対象物の材質などの条件によっては、切断片が異常に高く跳ねたり、強く飛んだりして負傷するおそれがあります。本書の「操作方法」部分の記述をよくお読みください。



注意

1. 作業場は、いつもきれいに保ってください。
 - ・ ちらかった場所や作業台は、事故のおそれがあります。
2. 子供を近づけないでください。
 - ・ 作業者以外、充電工具や充電器のコードに触れさせないでください。けがのおそれがあります。
 - ・ 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがのおそれがあります。
3. 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - ・ 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。事故のおそれがあります。
 - ・ 充電工具やバッテリーを、温度が40 以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内等）に保管しないでください。バッテリー劣化の原因になり、発煙、発火のおそれがあります。
4. 無理して使用しないでください。
 - ・ 安全に能率よく作業するために、充電工具の能力に合った速さで作業してください。能力以上でのご使用は事故のおそれがあります。
 - ・ モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。発煙、発火のおそれがあります。
5. 作業に合った充電工具を使用してください。
 - ・ 小形の充電工具やアタッチメントは、大形の充電工具で行なう作業には使用しないでください。けがのおそれがあります。
 - ・ 指定された用途以外に使用しないでください。けがのおそれがあります。
6. きちんとした服装で作業してください。
 - ・ だぶだぶの衣服やネックレス等の装身具は、着用しないでください。回転部に巻き込まれるおそれがあります。
 - ・ 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。すべりやすい手袋や履物はけがのおそれがあります。
 - ・ 長い髪は、帽子やヘアカバー等で覆ってください。回転部に巻き込まれるおそれがあります。
7. 充電器のコードを乱暴に扱わないでください。
 - ・ コードを持って充電器を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- ・ コードを熱、油、薬品、角のとがった所に近づけないでください。
- ・ コードが踏まれたり、引っ掛けられたり、無理な力を受けて損傷することがないように充電する場所に注意してください。感電やショートして発火するおそれがあります。
8. 無理な姿勢で作業をしないでください。
 - ・ 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。転倒してけがのおそれがあります。
9. 充電工具は、注意深く手入れをしてください。
 - ・ 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。損傷した刃物類を使用すると、けがのおそれがあります。
 - ・ 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。けがのおそれがあります。
 - ・ 充電器のコードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または弊社営業所に修理を依頼してください。感電やショートして発火するおそれがあります。
 - ・ 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には、交換してください。感電やショートして発火するおそれがあります。
 - ・ 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。けがのおそれがあります。
10. 調節キーやレンチ等は、必ず取りはずしてください。
 - ・ スイッチを入れる前に、調節に用いたキーやレンチ等の工具類が取りはずしてあることを確認してください。付けたままでは作動時に飛び出して、けがのおそれがあります。
11. 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
 - ・ 屋外で充電する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

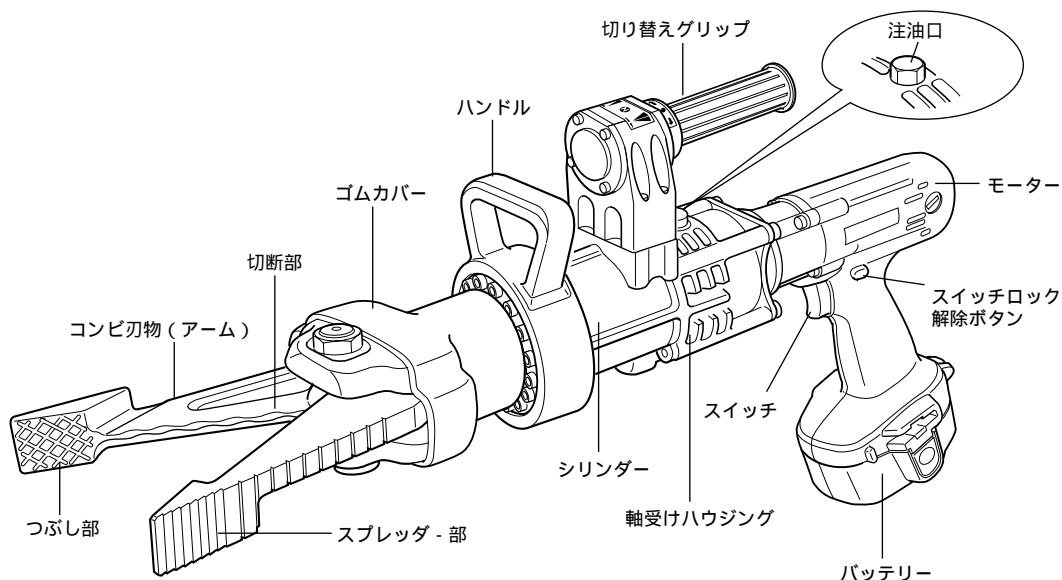


注意

12. 油断しないで十分注意して作業を行なってください。
 - ・ 充電工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況等十分注意して慎重に作業してください。軽率な行動をすると事故やけがのおそれがあります。
 - ・ 常識を働かせてください。非常識な行動をすると事故やけがのおそれがあります。
 - ・ 疲れている場合は、使用しないでください。事故やけがのおそれがあります。
13. 損傷した部品がないか点検してください。
 - ・ 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
 - ・ 可動部分の位置調整および締め付け状態、部品の破損、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
 - ・ 電源プラグやコードが損傷した充電器や、落したり、何らかの損傷を受けた充電器は使用しないでください。感電やショートして発火するおそれがあります。
- ・ 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または弊社営業所に修理を依頼してください。
- ・ スイッチで始動および停止操作の出来ない充電工具は、使用しないでください。異常動作して、けがをするおそれがあります。
14. 充電工具の修理は、専門店で依頼してください。
 - ・ サービスマン以外の方は本体、充電器、バッテリーを分解したり、修理、改造は行なわないでください。発火したり、異常動作して、けがをするおそれがあります。
 - ・ 本体が熱くなったり、異常に気付いた時は点検修理に出してください。
 - ・ 本製品は、該当する安全規格に適合していますので改造しないでください。
 - ・ 修理は、必ずお買い求めの販売店または弊社営業所にお申し付けください。修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがのおそれがあります。

各部の名称と仕様

各部の名称



仕様

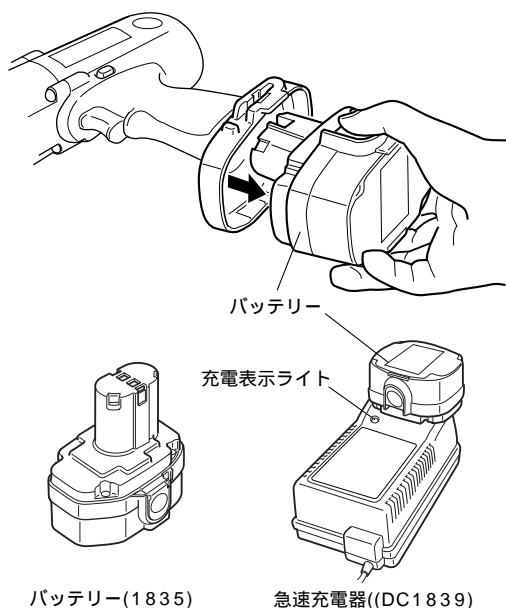
モーター	直流マグネットモーター
バッテリー	ニッケル水素電池 (バッテリー1835) 急速27分充電
電圧	直流18V
外形寸法	
刃物を開いた状態	692(L) × 344(W) × 198(H)mm
刃物を閉じた状態	734(L) × 292(W) × 198(H)mm
カッター開き幅 (最大)	171mm
カッターの能力 (最大)	奥部 (刃物軸の芯から34mm) 266.8kN(27.2t)
" (最大)	センター (刃物軸の芯から92mm) 98.6kN(10t)
スプレッダー開き幅 (最大)	250mm
スプレッダーの能力 (最大)	先端 39.3kN(4t)
" (最大)	先端から188mmの位置 104kN(10.6t)
ツブシの能力 (最大)	先端 44.2kN(4.5t)
引張り移動量 (最大)	先端 245mm
引張りの能力 (最大)	先端 44.2kN(4.5t)
質量	13.5kg

急速充電器	DC1839
入力電圧	単相交流100V
入力周波数	50 - 60Hz
入力容量	490VA
出力電圧	DC 7.2V - 9.6V - 12V - 14.4V - 18V
出力電流	直流 9A

付属品

充電器 (DC1839)	1	片口メガネスパナ (M27)	1
六角棒レンチ (M2.5, M3, M4, M5, M8)	各 1	バッテリーカバー	1
スパナー (14 × 17)	1	油圧オイル (150cm ³)	1
		商品ケース	1

バッテリーの充電について



ご使用前にバッテリーを急速充電器（DC1839）で充電してください。

1. バッテリーを取り外すときは、側面のボタンを押しながら取り出してください。
2. 急速充電器のプラグを100ボルトの電源に挿し込んでください。
充電表示ライトが「緑色」の点滅を繰り返します。
3. バッテリーを急速充電器に挿入してください。挿入には注意し充電器の挿入ガイドにそって充電器の底にあたるまで入れてください。
充電表示ライトが「赤色」に点灯し充電を開始します。
4. 充電が完了すると充電表示ライトが「緑色」の点灯に変わり電子ブザーが「ピー」と約5秒鳴ります。
5. 充電が完了しましたら、バッテリーを機械に挿し込み側面のボタンが「カチッ」という音で本体にはまったことを確認してください。

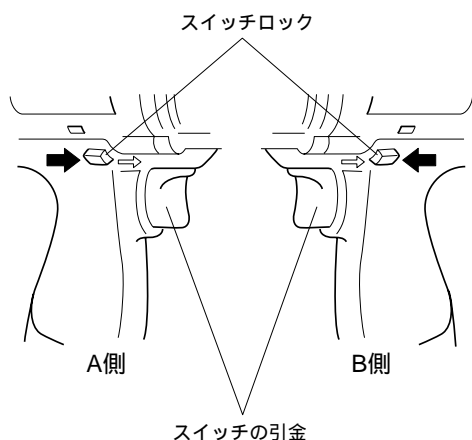
「バッテリー」の更新交換の時期

この製品のバッテリーの耐用年数は、ユーザー様ごとの使用頻度や管理状態により違いがありますが、消防分野における業務の実績では30ヶ月～36ヶ月にて充電回数寿命を迎えます。あらかじめ、更新を計画としてご準備くださいますようお願いいたします。

注

- ・DC1839はバッテリー専用の急速充電器です。他の目的に使用しないでください。
- ・新品や長時間使用されなかったバッテリーは、一回の充電で満充電にならないことがあります。このようなときは、使用・充電を2～3回繰り返してください。
- ・使用直後のバッテリーや直射日光の当たる場所に長時間放置したバッテリーを充電されますと、充電表示ライトが「赤色」の点滅を繰り返す場合があります。このようなときはバッテリーの温度が下がると充電を開始します。
- ・充電開始後、充電表示ライトが「赤色」、「緑色」の交互点滅を繰り返す。電子ブザーが「ピッピッピ」と約20秒鳴った場合はバッテリーの寿命またはゴミづまりで充電できません。

操作方法



スイッチとスイッチロックの操作

⚠ 警告

バッテリーをモーターへ取り付ける前にスイッチの引金を引き、離れたとき引金に戻ることを必ず確認してください。

- ・スイッチの引金が正しく作動しないと、事故の恐れがあります。
- ・スイッチは引金を引くと入り、離すと切れます。

スイッチロックの操作

- ・スイッチロックのA側を押すとスイッチのロックが解除されます。
- ・スイッチロックのB側を押すとスイッチのロックが解除されます。

ご注意

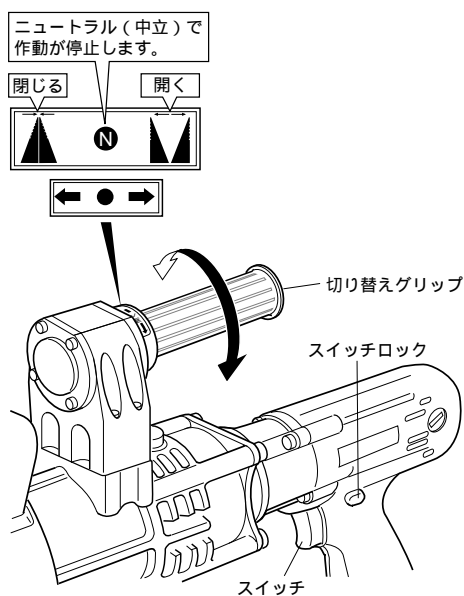
- ・機械を使用しないときは、スイッチロックのB側を押した位置にしてスイッチをロックしておいてください。

基本構造

OCT-250は、1台で「つぶし」、「開き」、「切断」ができる救助用コンビツールです。この3種類の作業のために、「コンビ刃物(アーム)」は開きと閉じの2種類の動きをします。機体上部の「切り替えグリップ」を左右へ切り替えることにより、この開きと閉じを切り替えます。開きも閉じも油圧により作動します(複動油圧式)。この作動と停止は、モーター部の「スイッチ」により操作します。

操作方法

1. 機体に貼付されたピクトリアル(絵表示)にしたがって、「開く=スプレッダー作業」「閉じる=つぶし、または切断作業」を選び、「切り替えグリップ」を左右へ回転させて切り替えます。中央の「N」表示はニュートラル位置で、モーター部の「スイッチ」を引いても、モーターは回転しますが、機体の「コンビ刃物(アーム)」は停止したまま作動しません。



⚠ 警告

製品をお使いにならない時は、必ず、「切り替えグリップ」を「N」表示の位置にセットして休止、保管してください。

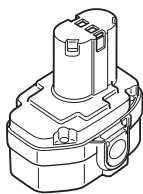
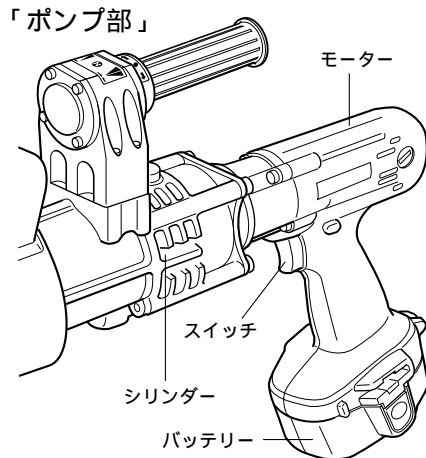
「N」以外の位置では衝撃などによって、突然作動する恐れがあり危険です。

2. モーター部の「スイッチロック」を開放し、「スイッチ」を引いてください。「コンビ刃物(アーム)」が作動し、選択した作業ができます。

油圧ポンプの出力制御機構（リリーフ弁機構）

OCT-250は、設計上の最大能力を超える負荷に対して、機体内部の油圧ポンプと「コンビ刃物（アーム）」の破損や故障を防ぐための、「リリーフ弁機構」を備えています。これは、能力を超える過大な体積や硬度をもった対象を切断しようとしたり、開こうとしたり、つぶそうとしたりする場合に、先端駆動部分が折損、破損、変形したり、機体自体が故障したりしないように、設定された最大油圧出力に達すると同時に自動的に制御弁がはたらく仕組みです。

過大な負荷がかかり、リリーフ弁機構がはたらくと作動音が変わりますので、そこですぐ作動を停止してください。20秒～30秒を経過してスイッチを引き続けた場合には、モーターが燃損するおそれがあります。



X2
連続使用は2個まで

バッテリー(1835)

ポンプ部操作上の注意

1. ポンプ部に内蔵されているリリーフ弁が作動した時は、直ぐにスイッチを引く事を中止してください。

⚠ 警告

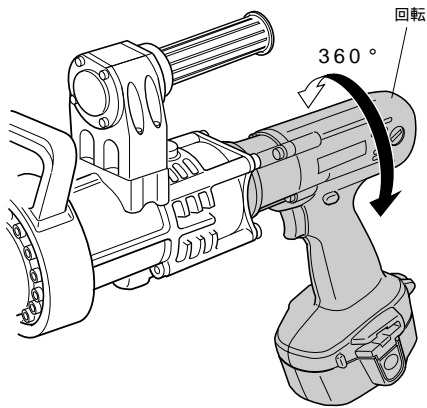
リリーフ弁が作動しているにもかかわらず、スイッチを引き続けるとモーターおよびスイッチへの過大な負担が生じ、とくにスイッチの燃損から短絡が起きる危険があります。

リリーフ弁が作動すると作動音が変わりますので、ただちにスイッチ操作をやめてください。

2. 連続使用時間は60～80分以内としてください。目安としてバッテリー2個の連続使用を限度としてください。

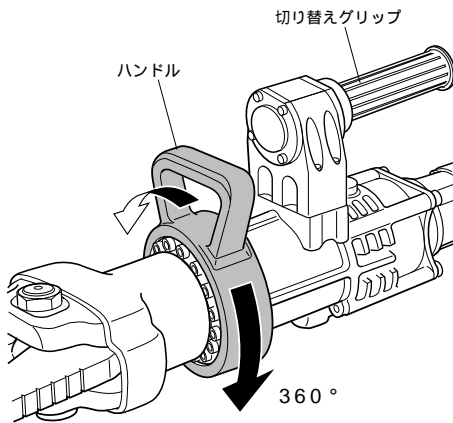
⚠ 警告

長時間の連続使用はモーターの発熱により【モーター焼け】の原因となりますのでご注意ください。

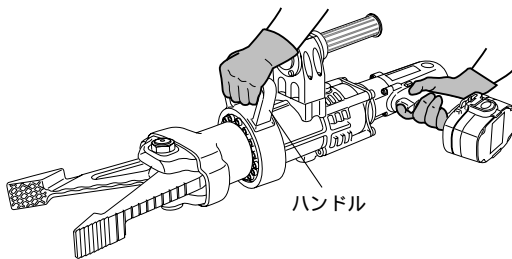


モーター部の回転機能について

この製品の特長として、使用中に先端部に負荷がかかった状態でも、モーター部分を左右どちらへも360度自在に回転させることができます。狭く限られた空間に機体を差し入れて作業をおこなう際にも、必要によりモーター部分を自由に回転させることで、スイッチ操作のしやすい位置を確保できます。

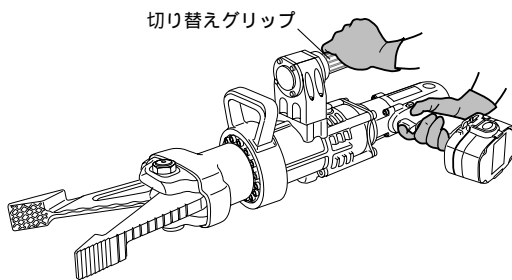


機体上部の「切り替えグリップ」は、作動を切り替えるスイッチとともに機体をささえ持つために用いることができます。また、機体中間部に位置する「ハンドル」も、左右自在に回転し、作業中に自由に動かしながらお使いいただけます。これら2箇所の持ち手を必要により使い分けてください（次項ご参照）。



本体の持ち方 1

対象物(車輛など)に対して、機体を持って近づく場合や、対象物の破壊作業の最初の段階では、図のように「ハンドル」とモーター部を両手でささえ持つことができます。こうした場合には、必ず「切り替えグリップ」の設定は「N」のニュートラル位置にしてください。

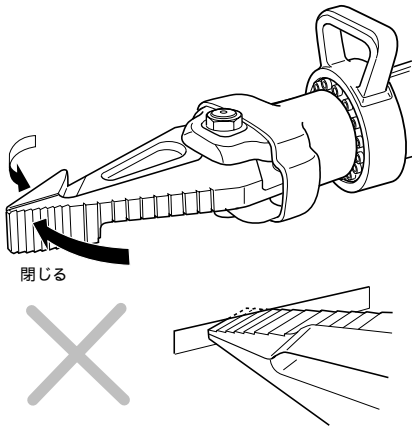


本体の持ち方 2

対象物(車輛など)に対する破壊作業が始まり、先端の「コンピ刃物(アーム)」部が対象物内部へ入った状態や、先端周辺をささえる必要がなくなった段階では、図のように「切り替えグリップ」とモーター部を両手で保持することで、開きと閉じを切り替えながら連続した作業をおこなうことができます。

ご注意

この製品は、内部油圧構造の性質上、長期間お使いにならないときは、必ず「コンピ刃物(アーム)」を開いた状態で、収納ケースに保管してください。

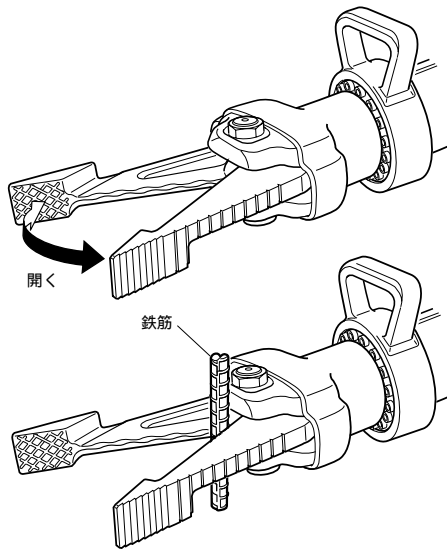


スプレッターとしてのご使用上の注意

コンビ刃物(アーム)閉じた状態から始動させる

警告

「コンビ刃物(アーム)」先端部を図のように「片掛け」して使用しないでください。先端部分が折れて飛散することがあり、たいへん危険です。
対象物に対し先端部を必ず均一に差し込んでお使いください。



カッターとしてのご使用上の注意

コンビ刃物(アーム)開いた状態から始動させる

切断作業の場合には、「コンビ刃物(アーム)」の刃渡り部分をカッターとして使用します。対象物に対して直角に「コンビ刃物(アーム)」が当たるようにしてお使いください。切断の途中で機体全体が傾き、さらに刃物にねじれが生じ、2枚のコンビ刃物(アーム)が開いてしまう場合には安全と破損防止のため、いったん停止、開放して、対象物に対して直角に切断できるように始めから当てなおしてください。

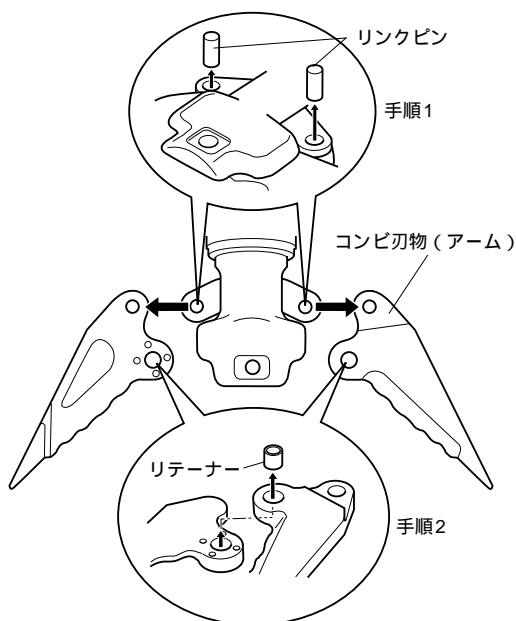
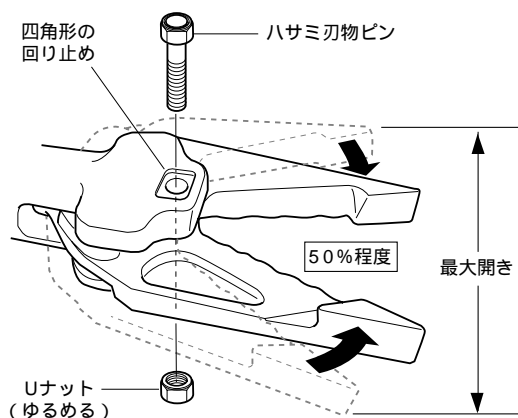
警告

切断作業時に、機体全体が斜めに傾く動きとともに、刃物と刃物がねじれて開く場合には作動を停止してください。
刃物が折損して破片が飛散する恐れがあり危険です。

OCT-250の切断能力【例】

異形鉄筋 (SD345)	サイズ	D10	D13	D16	D19
	最深部				
	センター		(ツイスト無しの場合)	×	×
丸棒	サイズ	10	13	16	19
	最深部				
フラットバー	サイズ	13 x t6mm		50 x t6mm	75 x t6mm
	1アクション				
L形鋼	サイズ	20 x 20 x t3mm	25 x 25 x t3mm	30 x 30 x t5mm	40 x 40 x t5mm
	1アクション				
パイプ	サイズ	17.3 x t3.2mm	27.2 x t2.9mm	34 x t3.4mm	42.7 x t3.6mm
	1アクション				×
角パイプ	サイズ	13 x t1.6mm		25 x t2.3mm	30 x t3.2mm
	1アクション				

コンビ刃物(アーム)の交換手順



取り外しの手順

「切り替えグリップ」を切り替えて、「コンビ刃物(アーム)」を全幅の50%程度まで開いてください。そこで停止し、必ず、「切り替えグリップ」を「N」表示のニュートラル位置に切り替えてください。さらに安全のため、モーター部の「スイッチロック」をロックしてください。

安全のため、必ず、バッテリーをモーターから引き抜いてください。

ゴムカバーをめくり上げてください。

付属の「片メガネスパナ」で、「刃物ピン」のナットをゆるめてはずしてください。このとき、反対側には四角形の回り止めがほどこされているため、その側からはナットをゆるめることはできません。機体部分が円形に加工してある側のナットをゆるめてください。

フリーになった、「コンビ刃物(アーム)」を両手でさらに開いてください。

ご注意

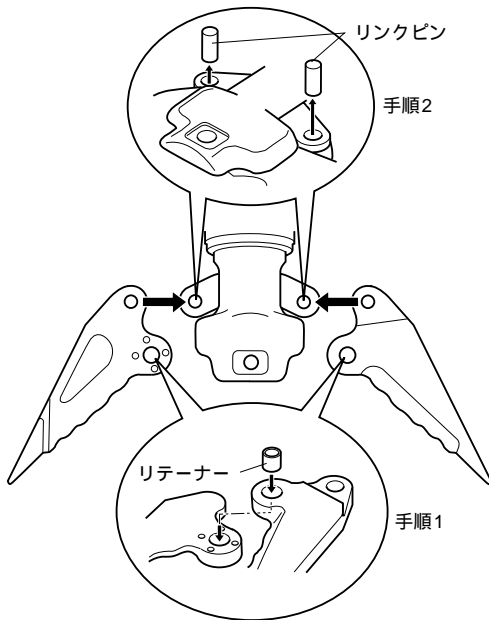
「コンビ刃物(アーム)」は部分的に鋭利な加工がほどこされた刃物になっています。手指を負傷する恐れがあります。

交換の際には、両手に皮革製手袋などをつけてください。

図のように、「コンビ刃物(アーム)」をさらに開いた状態で、「リンクピン」が見えてきますので、これらを引き抜いてください。

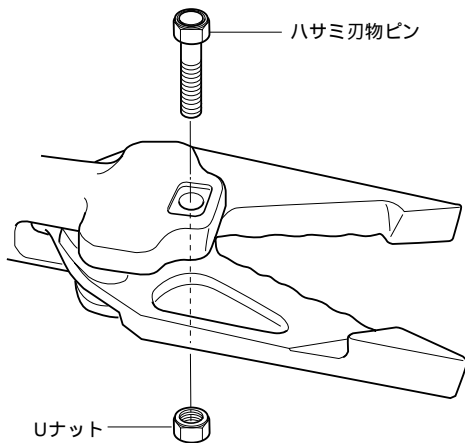
「コンビ刃物(アーム)」ははずしてください。

注意:「リテーナー」を紛失しないように注意ください。



取り付けの手順

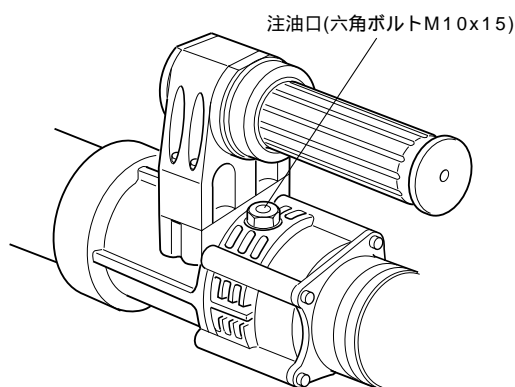
取り外した手順を逆にすることで「コンビ刃物（アーム）」を取り付けます（「コンビ刃物（アーム）」は左右ともまったく同一の部品です）。このとき、それぞれの「リテーナー」を忘れずに差し込んでください。



警告

すべての摺動部分には、必ず充分量のグリースを塗布してください。グリースがない状態では、摺動部分の焼き付きや磨耗の原因となります。

油の補充方法



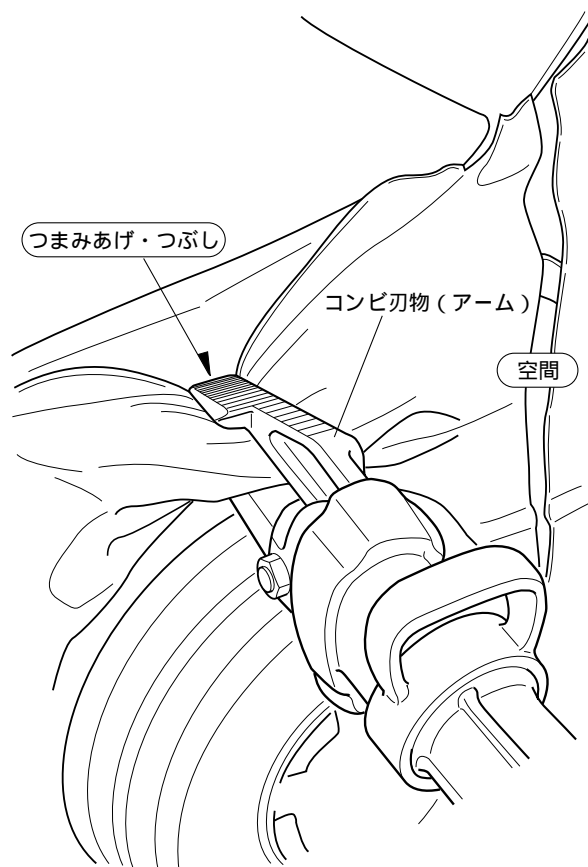
1. 機械本体を、モーター側を上にして垂直になるように立ててください。「切り替えグリップ」を「開き」へ切り替えてください。スイッチを断続的に操作して、「コンビ刃物(アーム)」を最大に開いて停止してください。このとき、スイッチ操作はゆっくりと断続的におこない、機体内部に「気泡(エア)」を発生させないようにしてください。
注) オイルを補充する場合は「コンビ刃物(アーム)」を必ず最大に開いてください。最大に開ききらずにオイルを補充すると、機械の不具合やシール部からの油漏れが発生します。
2. 機械本体を水平に寝かせ、安全の為にモーターからバッテリーを引き抜いてください。
3. 加圧された機械内部の圧力(内圧)を解除するために、機械本体の「切り替えグリップ」を一旦「閉じる(ピクトリアル表示大)」側へ切り替え、その後Nのニュートラルの位置にもどしてください。
4. 注油口の六角ボルト(M10×15)をゆるめて取り外し、注油口いっぱいまでオイルを補充してください。このとき、オイルがモーター内部などへ浸入しないように注意してください。
5. 補充が完了したら、六角ボルトを注油口へ再びしっかりと取り付けてください。
6. バッテリーを再びモーターへ挿入してください。
7. 再び機械本体を、モーター側を上にして垂直になるように立てて、「切り替えグリップ」を「閉じ」へ切り替えてください。スイッチを断続的に操作して、「コンビ刃物(アーム)」をいっぱいまで閉じてください。
8. 既述の1.から7.までの作業を2～3回繰り返し、4.の状態がオイルが追加補充できなくなるまでおこなってください。
9. 補充が完了したら、六角ボルトを注油口へ再びしっかりと取り付けてください。

ご注意

補充オイルは、**Ogura** 純正油圧オイルか、新日本石油(株)社製「スーパーハイランド#46」を推奨します。

油圧作動油(タービン油)の46番(粘度表示)とする市販品も可としますが、それ以外のオイルはパッキン類を損傷することがあり、故障原因ともなりますので使用しないでください。

使用例



「つぶし」機能の活用について

事故車両からの乗員の救出の際に、OCT-250の「コンビ刃物(アーム)」先端部分を閉じることで(最大出力 4.5t)、車体板金を「つまみあげ」たり「つぶし」たりすれば、スプレッターとして活用するために必要十分な開口部を作ることができます。

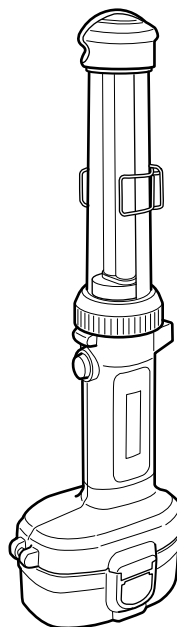
また、左図を一例として、前輪フェンダーを「つぶす」ことで全体が変形し、ドアヒンジ前方に大きな空間が生じます。こうした活用により、ドア破壊のためのスプレッター作業が容易になります。

放電用蛍光灯

「オプション」

(マキタ製12V用ML122および18V用ML183)

バッテリーを差し込んで、一般作業の用途に使える持ち運びに便利なコードレス蛍光灯です。お使いのバッテリーが「メモリー効果」により充電しにくくなった場合や、残量表示と実際の使用感覚が明らかに不一致だと感じる場合などにのみ、訓練や出場でご使用後すぐ充電をせずに、この蛍光灯にバッテリーを差し込んで点灯させておいてください。そのバッテリー内の残量によりますが、数時間点灯し続けますので、照明器具として車庫・作業場で放置いただくなり、署内での一般作業などにお使いいただいても結構です。自然に消灯しましたらバッテリーを取り外して、バッテリー自体の温度が下がりましたら充電器にセットして充電してください。この蛍光灯によって放電させることで、バッテリーの過放電をさけて完全放電をおこない(メモリー効果を消去し、残量表示も復旧し)、再び最適な満充電ができるようになります。平時は、症状を感じた場合、または、2~3ヶ月に一度ていどこの蛍光灯をお使いいただくことを推奨いたします。



12Vバッテリーには「残量表示」がついていますので、これを目安に、上記のように充電時に満充電しにくくなった場合などには、12V用ML122放電蛍光灯をお勧めします。

18Vバッテリーの場合は「残量表示」機能がありませんので、特にバッテリーの持続時間=機械の作動時間が短くなってしまった場合などには、18V用ML183放電蛍光灯をお勧めします。

△ 注意

いったん消灯後に、バッテリーを蛍光灯へ取り付けなおしてしまいますと、再び点灯しますが、この状態ではいわゆる「過放電」してしまいます。いったん消灯後は、バッテリーを充電器で充電してください。こうした手順により、「最適な放電~最適な満充電」が得られます。

バッテリー放電用蛍光灯(12V用) ML122 定価: 3,500円

バッテリー放電用蛍光灯(18V用) ML183 定価: 4,200円

これらの蛍光灯は、上記の型番にて「充電式蛍光灯」として、最寄りの「マキタ販売店」にてお求めいただくこともできます。

製造元

株式会社 **オグーラ**

〒243-0417 神奈川県海老名市本郷2661
TEL. 046(238)1284 FAX. 046(238)4188

お問い合わせ、ご用命は下記の販売店へどうぞ